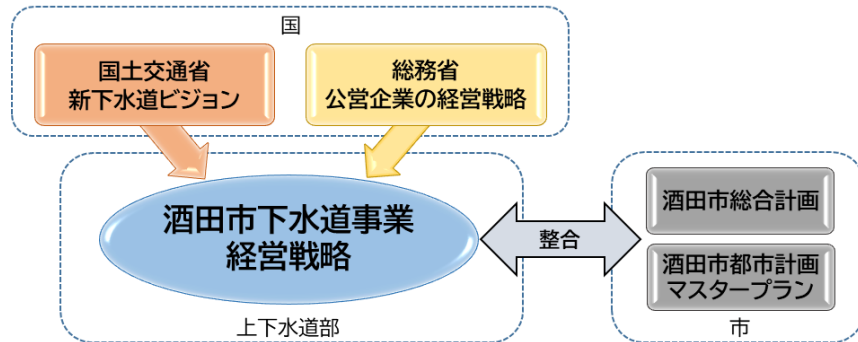


酒田市下水道事業経営戦略 改定版(概要版)

1 策定の趣旨と位置づけ

『酒田市下水道事業経営戦略』は、本市下水道事業の「中長期的な経営の基本計画」として策定するものです。

『酒田市総合計画』や『酒田市都市計画マスタープラン』と整合を図りながら、国土交通省の『新下水道ビジョン』が提示する下水道事業の果たすべき使命、総務省が策定を要請する「公営企業の経営戦略」の内容を併せ持つものとして策定しています。



2 計画期間

既計画と同様、令和8年度までの計画期間とします。

なお、事業の評価を行い、概ね3~5年で見直しを行います。

3 対象事業

本市で実施している「公共下水道事業」、「特定環境保全公共下水道事業」、「農業集落排水事業」、「簡易排水事業」、「特定地域生活排水処理事業」、「個別排水事業」の6事業を対象としています。

4 下水道事業を取り巻く環境

～人口減少社会～

酒田市の総人口

H27(実績値) 106,244人 → R27(予測値) 67,776人

38,468人(36.2%)減少



～施設の老朽化～

昭和40年代から事業着手

→ 施設の老朽化が進行

更新期の到来

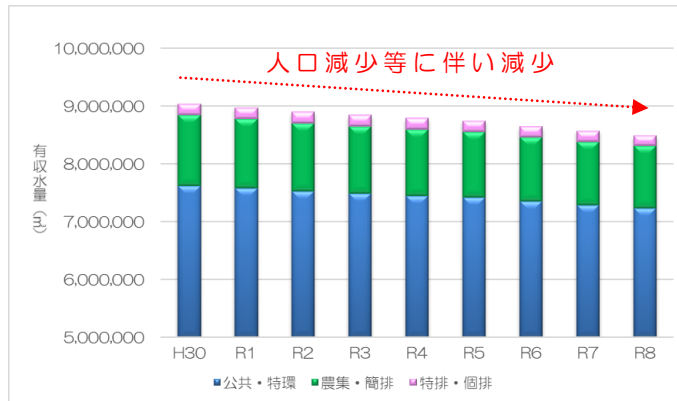


5 現状と課題

有収水量の減少

人口減少やライフスタイルの変化等による有収水量の減少は、使用料収入の減少や施設利用率の低下につながります。

市街地の下水を処理する酒田市クリーンセンターにおいても、処理能力(晴天時)36,870m³/日に対して、平成30年度の処理水量は21,468m³/日、施設利用率は約58%と、施設効率が課題となっています。



施設の状況

供用開始から40年以上が経過した処理施設やポンプ施設においては、硫化水素の影響等により老朽化が進行しており、また、総延長約777kmにおよぶ管路施設においても、老朽化に起因する道路陥没等の発生により、大量更新期の到来が予想されます。

住民生活に必要な不可欠な下水道サービスを持続して提供するためにも、効率的かつ計画的に施設を管理する「ストックマネジメント」の徹底と「ダウンサイジング」等による経済的な管理が必要です。

経営環境

本市ではこれまで、経営基盤の強化と管理の効率化を図るため、農業集落排水施設同士での「処理区の統合」や、個別に委託していた業務を一括発注する「包括的民間委託」の導入等により、経費削減に努めてきました。しかしながら、使用料収入の減少により、経営環境はより一層厳しくなることが予想されることから、更なる経営の効率化が必要です。

人材育成

ベテラン職員が退職し、職員数が減少していく中で、経営と技術の両面で下水道事業を担う人材の育成・確保が急務となっています。研修会等を通じ、専門知識と技術の習得に努め、大量更新期に備えた技術継承を行っていかねばなりません。

6 経営の基本方針

適正な施設管理

安定した事業運営

技術力の確保と人材育成

7 施策・取り組みの概要

適正管理

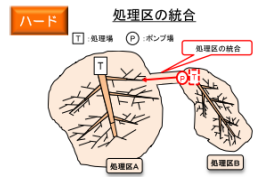
効率的で計画的な施設管理

- ・ 新技術を活用した維持管理
- ・ 最適な管理方法の選定
- ・ データベースへの蓄積と評価・見直し

安定経営

経営基盤の強化

- ・ 水洗化の促進活動
- ・ 不明水削減の取り組み
- ・ 広域化・共同化の推進



技術力

技術力の補完と人材育成

- ・ 官民連携の推進
- ・ 職員研修の充実



8 将来展望

更なる効率化に向け、次の項目についても検討を進めていきます。

- ・ 合流式処理施設の分流式処理施設への統合
- ・ 汚泥処理費削減の取り組み
- ・ 事業の最適化
- ・ 他自治体との連携による広域化・共同化(ハード・ソフト)